

# 鶏卵を巡る情勢

## 1. 需給動向

- (1) 昭和28年度の自給率は97%。近年は95～96%で推移。
- (2) 消費量は、年により若干の変動はあるもの概ね安定的に推移。
- (3) 生産量は、平成23年度に東日本大震災の影響等により6年ぶりに250万トンを下回ったが、平成24年度以降は年により若干の変動はあるもの概ね安定的に推移。
- (4) 輸入量は、国内の鶏卵需要や価格の動向、為替レート等の影響を受けながら変動しているが、国内消費量の5%程度で推移しており、そのうち約9割は加工原料用の粉卵が占める。平成28年度は、卵白の国際価格の上昇等の影響により減少。主な輸入相手国は、アメリカ、イタリア、オランダ等。
- (5) 輸出量は、殻付が中心で、近年増加傾向で推移。輸出先は、輸送距離や動物の衛生条件等の制約から香港、シンガポールをはじめとするアジアが中心。

### < 鶏卵需給の推移 >

(単位:千トン、[トン]、%)

年度 区分	60	2	7	12	17	22	24	25	26	27	28 (概算)
消費量	2,199 (1.1)	2,470 (0.1)	2,659 (▲0.3)	2,656 (▲0.1)	2,619 (0.4)	2,619 (0.4)	2,624 (▲0.3)	2,642 (0.7)	2,628 (▲0.5)	2,655 (1.0)	2,653 (▲0.1)
生産量	2,160 (0.7)	2,420 (▲0.1)	2,549 (▲0.6)	2,535 (▲0.2)	2,469 (▲0.2)	2,506 (▲0.1)	2,502 (0.3)	2,519 (0.7)	2,501 (▲0.7)	2,544 (1.7)	2,562 (0.7)
輸入量	39 (32.2)	50 (11.6)	110 (5.8)	121 (1.4)	151 (12.7)	114 (12.9)	123 (▲10.9)	124 (0.8)	129 (4.0)	114 (▲11.6)	95 (▲16.7)
輸出量	[2] (▲77.8)	[73] (▲70.1)	[50] (47.1)	[211] (▲35.0)	[1,056] (36.3)	[789] (▲18.5)	[722] (57.3)	[1,266] (75.3)	[1,888] (49.1)	[3,069] (62.6)	[3,521] (14.7)

資料:農林水産省「食料需給表」

注1:( )内は対前年度増減率。

2:輸入量及び輸出量は殻付き換算。

3:輸出量の[ ]内はトン表示。

## 2. 消費動向

- (1) 年間一人当たりの消費量は、近年、概ね横ばいで推移。
- (2) 家計消費の占める割合は、近年、概ね横ばいで推移。
- (3) 平成28度における消費形態は、家計消費52%業務・加工用48%。
- (4) 1人当たりの消費量は世界でも最高の水準。

### < 一人1日当たり鶏卵消費量 >

(単位:g/日・人、%)

年度 区分	60	2	7	12	17	22	25	26	27	28 (概算)
家計消費量①	30.7	29.7	29.3	28.5	27.0	27.5	26.9	27.1	27.5	28.5
業務・加工用	16.2	22.2	25.8	26.2	26.5	25.8	27.2	26.8	26.3	25.9
総消費量②	46.9	51.9	55.1	54.7	53.5	53.3	54.1	53.9	53.8	54.4
①/②×100	65.5	57.2	53.2	52.1	50.5	51.6	49.7	50.3	51.1	52.4

資料:総務省「家計調査」、農林水産省「食料需給表」

### 3. 経営状況

- (1) 採卵鶏の飼養戸数は、小規模層を中心に毎年減少しており、平成29年2月1日現在の飼養戸数は2,350戸と前回に比べ3.7%減少。
- (2) 成鶏めす飼養羽数は、平成11年以降減少傾向で推移しており、平成19年は増加に転じたものの、平成20年以降は再び減少。平成26年以降は増加傾向で推移しており、平成29年は前年比1.1%増の136百万羽。
- (3) 一戸当たりの飼養羽数は、一貫して増加しており、平成29年は前年比2.7%増の57,900羽。
- (4) 平成29年における成鶏めす羽数規模10万羽以上層の飼養戸数は340戸（全体の16.1%）、飼養羽数は101百万羽（全体の74.3%）。

#### < 採卵鶏の飼養動向 >

区分		年								
		3	8	13	18	23	25	26	28	29 (概算)
飼養戸数(戸) (対前年比(%))		10,100 (-)	6,800 (▲7.0)	4,720 (▲3.5)	3,600 (▲12.0)	2,930 (▲5.8)	2,650 (▲5.7)	2,560 (▲3.4)	2,440 (▲4.7)	2,350 (▲3.7)
うち成鶏めす10万羽以上層 (戸) (シェア(%))		240 (2.5)	330 (5.0)	340 (7.3)	352 (10.7)	336 (12.5)	328 (13.5)	324 (14.0)	347 (15.7)	340 (16.1)
成鶏めす羽数(百万羽) (対前年比(%))		139.3 (1.7)	145.5 (▲0.7)	139.2 (▲0.8)	136.9 (▲0.8)	137.4 (▲1.8)	133.1 (▲1.8)	133.5 (0.3)	134.5 (0.8)	136.1 (1.1)
うち成鶏めす10万羽以上層 (百万羽) (シェア(%))		43.9 (31.6)	64.0 (44.1)	69.2 (49.9)	82.3 (60.1)	90.1 (65.7)	91.6 (68.8)	93.5 (70.0)	99.4 (73.9)	101.0 (74.3)
一戸当たり成鶏 めす飼養羽数	千羽	13.8	21.4	29.5	38.0	46.9	50.2	52.2	55.2	57.9

資料：農林水産省「畜産統計」(各年2月1日現在)

注1：種鶏のみの飼養者を除く。

2：3～9年は成鶏めす羽数300羽未満、10年以降は成鶏めす羽数1,000羽未満の飼養者を除く。

3：23年以前及び28年の対前年増減率は、調査未実施(センサス年)のため、前々年との比較である。

### 4. 価格動向

- (1) 鶏卵に対する需要は概ね横ばいで推移。鶏卵自給率は、95～98%で推移しており、国内生産量の変動が価格変動と直結している。
- (2) 価格は、春から夏にかけて需給が低下するため下落し、8月中旬以降から12月にかけて需要が増加(鍋、おでん、クリスマスケーキ等)するため、上昇する。
- (3) 卸売価格
  - ① 平成24年度は、年度当初から低価格で推移し、5月には標準取引価格(日毎)が安定基準価格を下回ったため、成鶏更新・空舎延長事業が発動。10月以降は需要の回復等により前年を上回って推移

- ② 平成25年度は、5月13日に標準取引価格(日毎)が安定基準価格を下回り、2年連続して成鶏更新・空舎延長事業が発動。8月以降、猛暑の影響による供給減少等から価格が上昇し、12月には直近最高値(272円/kg)となり、例年に比べ高水準で推移。
- ③ 平成27年度は、前年に引き続き高水準で推移。
- ④ 平成28年度は、卵価が高水準にあった過去2年度より下回って推移したが、平成29年1月以降は堅調に推移。
- ⑤ 平成29年度は、加工向けの需要が旺盛である一方、生産量が増加傾向にあること等から、前年度並みで推移。

< 鶏卵価格の推移 >

(単位:円/kg、%)

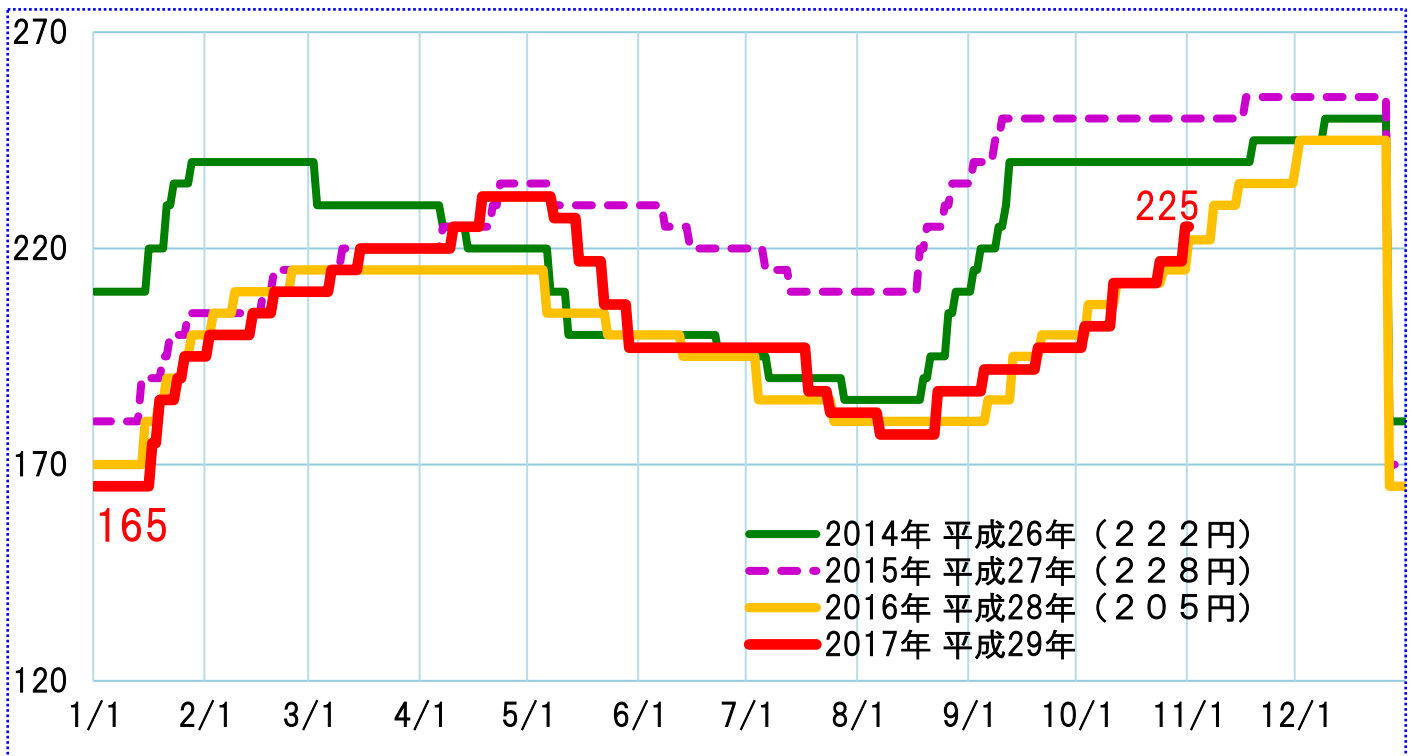
年度 区分	2	7	12	17	22	24	25	26	27	28	29 (4-9)
農家 販売価格 (前年度比)	224	174	171	176	188	177	206	213	227	210	209
	124.2	114.7	93	93.2	112.2	97.3	115.8	103.4	106.7	92.8	99.5
卸売価格 (前年度比)	241	197	185	186	193	181	207	216	227	205	201
	120.5	116.6	92.5	90.7	110.3	96.3	114.4	104.3	105.1	90.6	102.9
小売価格 (前年度比)	344	296	310	221	224	216	228	242	250	242	245
	119.4	106.9	98.4	100.9	103.7	96.4	105.6	106.1	103.3	96.4	102.1

資料:農林水産省「農業物価統計」、全農たまご東京 M 相場、総務省「小売物価統計」

注1:小売価格は、14年7月よりMサイズ1kgからLサイズ10個に変更

注2:卸売価格は、消費税を含まない。

< 鶏卵卸売価格の推移 >



資料:全農たまご東京 M 相場